



Global Awareness I : Exploring Culture and Society Group 1



外国人教員による特別プログラム

実施日: 2022年10月12日、10月26日、11月2日、11月16日

実施場所: 荒巻キャンパス2号館GB101

リーダー: 理工学部電子・機械類1年 前田 翔馬 / 情報学部情報学科1年 小暮 匠弥

講師: 大学教育・学生支援機構大学教育センター Raymond Hoogenboom 先生 / Anna Husson Isozaki 先生

概要

2022年10月から11月に行われたGFL2022年度生を対象とする特別プログラムGlobal Awareness I が2グループに分かれて行われた。Global Awareness I とは、GFL1年生が外国人英語教師を招いて全4回の講義をしてもらうというプログラムである。

背景・目的

今年度の Global Awareness は3年ぶりに対面形式で行われた。このプログラムは Pechakucha というプレゼンテーション形式を用いて、英語でのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図り、また世界の文化や国際問題などの理解を深めることを目的としている。

Pechakucha とは

PowerPointを用いたプレゼンテーションの方法の1つである。しかし、普段行っているプレゼンテーションとは異なり、タイマー機能によって20秒でスライドが自動で進み、写真やイラストと少しの文字のみで構成されたスライドで行う。また、原稿を作ったり、文を覚えたりすることもできないことから、英語かつアドリブで説明する力が大きく求められる。

活動内容

Session 1 October 12

- 自己紹介
- Pechakuchaの説明
- Pechakucha のテーマ決め

Pechakuchaについて初めて聞いたときはとても難しく感じた。自分は好きなお菓子について発表したが、他のGFL生は地元の紹介が多かった(図1)。



図1. Session 1 授業風景



図2. Session 2 個人発表

Session 2 October 26

- Pechakucha の発表

→8スライド×20秒の個人発表(図2・3)
6人グループに分かれて各自PCを用いて発表
→各グループから代表1人が大スクリーンのスライドを用いて発表

発表は緊張したが、とても楽しかった。自分の話したい言葉がスムーズに出なかったので、次の発表では改善したい。

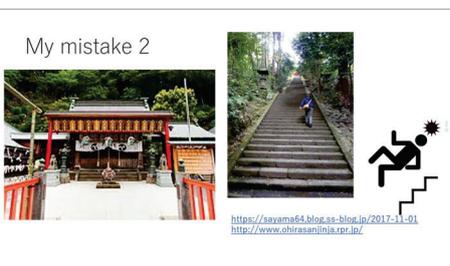


図3. Session 2 発表スライド

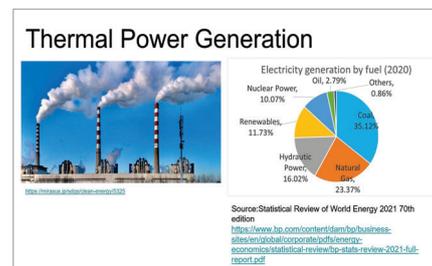


図4. Session 4 発表スライド

Session 3 November 2

- グループ決め(3・4人)
- Pechakucha のテーマ決め
- 内容は国際問題や世界の文化など

発表スライドを作成するのがとても大変だった。私のグループでは、発電方法とその利点、欠点について発表することにした。

Session 4 November 16

- Pechakucha の発表

→12スライド×20秒のグループ発表(図4)
Pechakucha の改善点・問題点
Pechakucha のまとめ

途中で讀いた時に、さりの悪いところで終わってしまい、少し残念だったが、同じグループの人と協力しグループ発表することができた(図5)。



図5. 集合写真

まとめ

全4回の講義を通して、GFL生同士の人間関係の広がりや英語によるコミュニケーション能力の向上を感じた。最初は、同じ学部の人ばかりと関わっていたが、グループによる個人発表やグループ発表によって、他学部のGFL生とたくさん関わることができた。「Pechakucha」は、原稿がないという点と時間が一定であるという点がとても難しく感じたが、原稿がないことで、自然と顔を上げてプレゼンテーションをすることができ、その場で言いたいことを文章にして話す能力が向上したと感じた。グループ発表では、国際問題や世界の文化について新しく知ることがたくさんあり、「Global Awareness」を得ることができた。

謝辞

最後に、忙しい中この講義を実施してくれたRaymond Hoogenboom先生、Anna Husson Isozaki先生ありがとうございました。また、私たちのサポートと写真を撮ってくださった Pramila Neupane 先生、GFL事務の方々本当にありがとうございました。また、素敵なPechakuchaをプレゼンテーションしてくれたGFL生の皆さんありがとうございました。